

# 学校施設を含む公共施設の方針に係る説明会 開催結果【仁手小学校区】

7月20日(土) 開催  
仁手小学校区

## 学校施設を含む公共施設の方針に係る 地区別説明会が開催されました

本庄市では、こどもたちにとって望ましい教育環境の実現を目指すため、学校規模の適正化を検討するとともに、学校規模の適正化により、統合となる学校の跡地の活用や既存の公共施設の機能を新たな施設に集めて複合化するなど、公共施設の見直しを進めています。

この度、検討を進めてまいりました学校施設を含む「各公共施設の見直し方針(案)」を取りまとめましたので、7月20日から8月25日にかけて、市内12の小学校区単位での地区別説明会及び本庄地域・見玉地域の全体説明会を順次開催します。



開催風景(仁手公民館)

第2回として、7月20日(土)午後2時から仁手公民館において、「仁手小学校区」の説明会が開催されました。

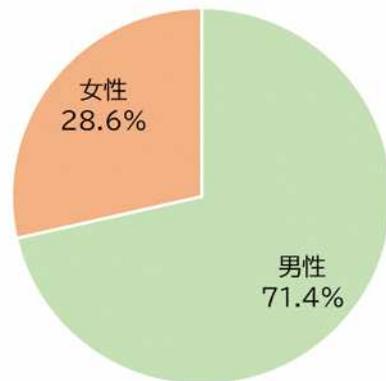
当日の質疑応答では、11件のご意見・ご質問をいただくとともに、説明会にご出席いただいた皆様には会場でアンケート用紙を配布し、16人の方からご意見等をいただきました。

### 【開催概要】

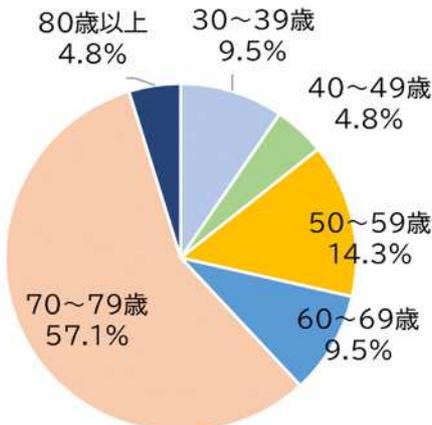
開催日時 令和6年7月20日(土)  
午後2:00～午後4:10  
開催場所 仁手公民館  
参加者数 30人  
アンケート回答者数 21人

### 参加された方の属性(アンケートより)

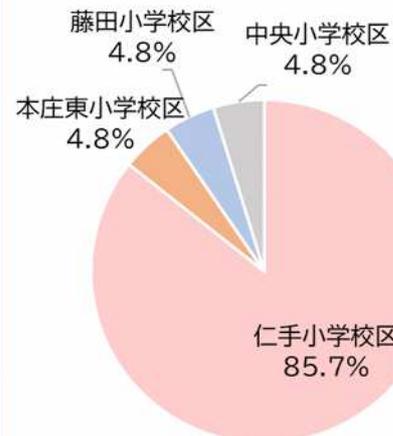
#### 性別



#### 年代別



#### 居住地区



## 説明会でいただいたご意見・ご質問(アンケートへの記載含む)

### 学校施設について

- 世の中の少子高齢化の流れとして、資料にあるような具体的な数を挙げてもらえると、仁手小学校や藤田小学校が無くなるということも納得できる。
- 隣の美里町やさいたま市では義務教育学校を進める動きがあるが、本庄市で義務教育学校を導入した場合、1,500 人程の大規模校ができる可能性はあるのか。
- 仁手小学校は小規模特認校として特色があるため、外からも家を建ててまで通いたいという話も聞く。そのような面を共有できればいいと思う。
- 基本データである市の人口の見込みについて、見極めはしっかりやってほしい。
- 通学距離については、中学生は良いが、小学生は4～6kmは無理がある。小学1年生は1kmも大変である。統合後はスクールバスを用意すると思うが、きちんとしたシステムを考えた上でやってほしい。そして、新しい学校をつくる場所についても重要である。
- 仁手小学校は小規模特認校として、これまで様々な努力をして何とか維持してきた。令和13 年度には統合となることは、これまでの努力が実らなかったということであり非常に残念であるが、統合するまでの期間は小規模特認校制度を継続していくのか。
- 平成 31 年から実施した小規模特認校制度は、市の施策としてやってきた。市の教育委員会として小規模特認校制度の総括をしてほしい。
- 本庄東小学校と藤田小学校、仁手小学校の3校が統合し、本庄東小学校の校舎を活用すると資料にあるが、新しい学校になるという理解でいいのか。
- 説明の仕方についての意見であるが、こどもたちの未来のために統合するということであるはず。何を大事にして統合するのかということがぶれてきてしまうので、説明の仕方などに留意してほしい。
- 平成31年3月に学校施設の整備方針が出されており、5年しか経過していないが、当時と大きな変化が起きているため、それを見直して統廃合ということになったのか。
- 学校の説明資料 30 頁に「義務教育学校」とあるが、これについて説明をしてほしい。こういった文言については、広く市民に理解されている言葉であるのか確認が必要である。行政と市民との間にある理解のギャップを埋める努力をしてほしい。
- 統合することでこどもの環境が変わる。小規模学校の良いところを続けて行ってほしい。
- 保護者は通学の安全・安心を求めている。スクールバスが出ることになると思うが、具体的なバス通学について、現実に即した形で検討して行ってほしい。
- 小学生の通学距離の 4 km以内は無理。特に1年生、2年生は大変だと思う。特殊事情だけで片付けられる問題ではない。
- 小中一貫教育の意は理解できるが、旧村部(仁手、旭、藤田等)はますます過疎が進み、将来的に不安も残る。
- 通学距離が小学校低学年にとっては長く大変と思う。
- 統合後、1 学級あたりの人数を少なくし、少人数学級の実現をお願いしたい。
- 具体的に数字等で示してもらい事情は分かった。

## 学校施設について

- タイムスケジュールの調整と説明が今後大切。地域住民は、今後どのように統廃合が進んでいくのかが知りたいと思うので。
- 児童の通学の安全・安心が必要。バスを使う場合もバス通学を具体的に、現実に即して計画を作成することが望まれる。
- 地域から小学校が無くなってしまふことで、今以上に子育て世代が仁手や藤田地域から離れてしまふことが心配である。
- 子育て世代が住みたいと思えるような地域にしていくために、小学校の跡地に魅力あるコミュニティ施設を作してほしい。
- 通学バスの検討、よろしくお願いします。
- 少子高齢化、物価高騰、色々な問題を抱える昨今、学校施設等を見直していくことは仕方のないことだと思う。
- 学校の統合も教育環境の整備と言われれば、それも一理あると思う。ただ学校が無くなってしまふ地域が廃れてしまふこと、現在もあるが、市内の地域差も大きな問題。それについても今後考えてほしい。統合する前から、それに向けて準備してほしい。子供たちの精神面、安全面、例えば高学年で急に統合されるこどもは、小→大、心の面ですんなり学校生活ができるのか不安！！
- 国道 17 号バイパスによる市街地との隔絶が懸念される中、更に地域の中心的存在である小学校が無くなることに不安を感じる。
- 少なくとも統合される地域の児童の通学・安全確保を図ってほしい。
- 学校の統廃合の目的は、何より今とこれから未来を生きるこどもたちのためだということを、もっと前面に出して説明すべきだと感じた。ともすると、こういった場に参加する方は、40代、50代、60代、70代だったりするので、自分たちの喪失感が優先してしまう。このため、これからの本庄市、ひいては日本を背負って立つこどもたちの育ちのための適正な人数を検討していく、この点を前面に出して議論を進めてほしいと思う。

## 公共施設について

- 学校教育の場の再編については説明があったが、生涯教育の場は作り直すという理解でいいのか。その場合、公民館はこれまでの規模をそのまま維持するのか。高齢化が進んでいる中で、生涯学習の必要性は高まってくると思うため、規模や機能を拡大するような検討をしているのか。
- 公共施設の説明資料5頁に財政制約と記載がある。過去5年間の支出を基に算出されたところがあるが、これについてももう少し詳しく説明してほしい。
- 時代の流れを感じた。見直しはやむなしかなとも思う。
- 公共施設の統合・解体の事前告知は、早めに公に告知いただけると助かる。
- 本庄市でも全国でも減少は変えようがない中、最良の見直し検討・計画が、社会状況の変化もあろう中、適切に実行されていくように望む。
- 更新費・改修費、見直し後 8.0 億円/年乖離がある。今回見直しで 2.9 億円/年減少していないので、8.0 億円/年の見込みはあるのか？
- 今後も公共施設の見直し方針については、随時、説明会を実施してほしい！

その他

- 行政の方と直接話をする機会があって、これからもこういう機会を重ねてほしいと思う。
- 参加人数が少なすぎた。もっと多くの人に来てもらいたかった。
- 今回の説明会に関して、もっと周知する必要があると感じた。今、小さな子どもを持つ世代があまり説明会に参加しておらず、そもそも説明会があることを知らなかったという現状がある。対象となる学校や地域にある保育園等を通して、説明会のお知らせを出す等が必要だと思う。このままでは説明が不十分に感じる。対象となる世代への積極的な説明を続けてほしい(14回で終わらせず)。
- 住民が理解しやすい説明に努めてほしい。
- 説明は分かりやすかった。

※各説明会でいただいた主なご意見・ご質問に対する回答につきましては、後日、自治会回覧及び市ホームページに掲載いたします。

【お問合せ先】 本庄市 企画財政部 企画課 0495-25-1157  
本庄市 教育委員会 学校教育課 0495-71-8690